

地域の高齢者や異年齢児との交流

取り組みの概要

高齢者のグループや、小中学生・高校生ボランティア、地域住民などが気軽に保育所を訪れ、園児と触れ合うことで異世代の人々が交流する機会を設けます。

協働の きっかけ

地域全体で子どもを見守り、育てていくという意識が希薄になってきている中で、子どもが異世代の人々と触れ合う機会が減少してきています。
高齢者や小中学生・高校生をはじめ、地域のあらゆる年代層の方が気軽に保育所を訪れ、園児と交流することを通じて、地域全体で子どもを育てるという意識を醸成するとともに、保育所のさらなる活用を目指します。

こども課

・地域全体で子どもを育てるという意識を醸成することができる

・保育所が、地域に対してより開かれた存在であるために、分かりやすい情報提供に努める



市民（高齢者や小中学生・高校生など）

・異世代の人々と触れ合う機会がふえる

・保育所行事への参加や訪問

強み

役割

協働の 成果

高齢者からは、昔の遊びの伝承や社会参加に対する喜びの声が聞かれています。また、これからの世代を担う小中学生・高校生にとっては、実際に子どもたちと触れ合うことで、幼い子どもを慈しむ心が醸成されるとともに、将来の子育てへの希望を持てるという効果が期待されます。保育所の園児にとっても、異世代と触れ合うことにより社会性等を涵養する大切な機会となっており、双方にとって良い刺激になっています。

協働のポイント

地域の実情を理解し、保育所に対するニーズを把握するためにも、地域の声を聞くことが重要になっています

- ①高齢者ボランティアグループや、老人クラブの方々の、保育所行事への参加や保育所への訪問。
- ②小中学生・高校生ボランティアの保育所園児との交流。
- ③地域住民の保育所地域活動への参加。

高齢者、小中学生、
高校生、地域住民

相互交流

保育所園児